

最低生活保障の実証分析

——生活保護制度の課題と将来構想

山田篤裕 = 駒村康平 = 四方理人 = 田中聡一郎 = 丸山 桂

2018年7月発売 / 252頁 / 本体2900円+税
A5判 / 並製



編集
担当者
から

厚生労働省の、社会保障審議会生活保護基準部会の会長である駒村康平先生、委員の山田篤裕先生ら、実際に政策に関わっている研究者による、生活保護制度の貴重な分析と提言です。日本国憲法第25条にも掲げられている、「健康で文化的な最低限度の生活」を保障するためには何が必要か。日本の低所得者の実態と政策変更の影響を踏まえ、最低生活保障の将来設計を構想します。

生活保護制度を中心とする最低生活保障制度に関し、個票データを用いた実証分析は未だ乏しく、とくに近年の生活保護制度改革に関する大規模データを用いた実証分析は著者らの研究以外はほとんどありません。本書は、経済学的手法に基づき大規模データを分析し、根拠に基づく政策評価を行います。社会保障、社会政策を学ぶ人・関わっている人必読の書です。(は)

Index



数式もありますが、読み飛ばしても理解できるようになっています。

序章 日本の最低生活保障の特徴

第I部 最低生活保障の現状と政策効果

第1章 生活保護受給世帯のストック・フロー分析

——世帯類型の変化と脱出困難な生活困窮世帯の流入

第2章 生活保護受給世帯率の地域差と資産保有——貯蓄・持ち家・乗用車保有の影響

第3章 生活保護基準の変更と就労——ひとり親世帯就労促進費廃止と母子加算復活の影響

第4章 生活保護基準の変更と消費——高齢加算廃止による消費への影響

第5章 OECD 相対的貧困基準と生活保護基準

——2つの基準で捉えられた低所得層の重なりと時系列変化

第6章 家族の変化と相対的貧困率の変化——親と同居する無配偶の成人子ども増加の影響

第7章 低所得世帯の居住水準——住宅の種類別にみた居住水準・家賃負担の実証分析

第II部 最低生活保障の構想

第8章 主観的最低生活費の測定——生活保護基準額との比較

第9章 子育て世帯向け給付つき税額控除の貧困削減効果——所得保障としての有効性と問題点

第10章 住宅手当の構想——住宅手当導入の費用と効果

終章 最低生活保障の確立のために